

後にならないと同郷の人たちにも懐かしさを強く感ずることもないものである。これは学校の「同窓会」であれ、「ふるさと会」であれ、どこでも同様である。

「ふるさと普代会」も十回を数えた頃から組織もしつかりと固まり幹事の方々も総会開催に慣れ、私は会長交代をお願いしていた。

平成十三年十月二十一日、第十三回総会において私は副会長で黒崎出身畠山茂樹氏(六八)を推薦、満場一致で二代目会長に決まった。前任者として皆さまによりしくお願い致します。

平成八年から飲み会だけの会ではなく、幹事会で相談して会員その他から二十分程度の講演をお願いしているがどの演者も興に乗り時間オーバーして一時間近い話になっている。

平成八年は会長であった私、熊谷文弥の「ストレスと胃潰瘍」

の表題で一般の人に分かりやすく話した。別な会場でくわしく聞きたいという人たちがいた。二十分の予定が四十分になったという。

平成九年は普代村力持出身でリングネームを「タイガー道上」と云い、昭和六十二年二月ジュニア・ライト級全日本チャンピオンとなったプロボクサー道上滋さんに、「チャンピオンへの道」というお話と彼に指導を受けているお弟子さんを相手のスパーリングとかいう実際の練習風景を見せてもらった。

昔、旧友普代村在住の高橋富也さんが盛岡一高のとき、ボクサーの姿をした写真を私にくれたことがあり今でもアルバムに収まっている。さらに余談であるが、私の実弟熊谷義重・熊谷儀七はボクシングなど見たことのない医師の私を、あろうことがタイガー道上の後援会長に仕立て上げた。ところがこのスポ

ーツは殴り合いのため常に危険が伴い試合場にはリングドクターという脳神経外科の専門医が囑託医となっている。

「医科大学の外科教室で二年以上級の先生が脳神経外科を担当しておられたが、なんとこのリングドクターの責任者であった。この先生はあるときタイガー道上後援会長医師熊谷文弥という名前を見付け「医大外科の医局で「熊谷文弥」というのはウチの熊谷のことじゃあないか」と同級生に話したら私もよく知っている「先生という理事になられた方が、同名異人だろう。研究室で顕微鏡ばかりのぞいていた熊谷とボクシングがどうすれば結びつくんだ」と云われたという。外科同門会の席上、この先生方にそのことを聞かれ

「やっぱり熊谷か、あのスポーツはいろいろあるから熊谷君のような人が後援会長をやってくれるのが一番いいんだよ。何か

あったらすぐ云えよ」と云っていただいた。先輩とはありがたいものである。

平成十年は元村長和村幸得氏の実弟で講道館で柔道の段級審査などしておられる柔道八段和村公男先生に、「講道館と私」と題してお話いただいた。

平成十一年は郷里普代村役場に長く勤務された普代在住の野崎幸太郎氏に、「村職員として」のお話をいただいた。平成十二年はふるさと会顧問の横田歯科医院長横田由三先生に、「私の歩んだ道と歯の健康について」のお話をいただいた。平成十三年の本年は畠山茂樹新会長の「私の歩んだ道」である。どなたのお話も深い感動をつける良いお話ばかりであった。

「東京ふるさと普代会」は会員の皆さまのおかげでしっかりと組織が固まった。至らぬ私に組織から離れないようにと名誉会長の名称をいただいた。この

トしました。今年で三年目となる「サケの一本釣り」は、網起こし体験、つかみ捕り大会も行うとあって、人気は上々の滑り出しを見せました。

北緯四十度サーモンパーク推進委員会会長の鎌倉秀雄さん(六七、堀内)は、「九月の末に茨城県の水戸市から六人の団体が

来てくれますだったが、そのとき釣れた豪快なサケの感触が忘れられないってまた、十月の初めに同じメンバーで来てくれま

見事釣り上げた大物のサケを喜び、10月14日は晴天でした



サケの一本釣り あなたは挑戦 しましたか!

九月二十二日、「サケの一本釣り」が県内のトップを切って堀内漁港まついそ公園でスター

お知らせ

「広報ふだい」平成13年8月号2ページ、村郷土史編集委員熊谷文弥の投稿原稿「普代村のホタル」の冒頭、上段右から4行目「名優高倉健扮する...」を「名優高倉健らの扮する...」に。(《らの》の2字がペン書き草案からワープロ原稿を打つ際脱落しておりまして、平成13年11月のこの号でお知らせしておきます)

筆者 熊谷 文弥

たびの会の席上で、郷里からの「広報ふだい」を毎月楽しみにしていますが熊谷会長の投稿は大変面白いから時々お願いいたします。とお話があり、おだてにのってまたまた投稿した。

平成十三年十月二十一日の総会でも口頭でお礼申し上げたが再びこの紙上をお借りして深渡宏村長始め役場職員の皆さま、首都圏の会員の皆さまに永年のご協力とご指導に対しお礼申し上げます。次第である。

「原文のまま」

すたつたあ。それからも、「普代のサケは美味しい」と注文が二回も来ますたつたが、「とうれしそに話してくれました。一本釣りに挑戦してない「あなた」普代のサケと勝負してみませんか。サケの一本釣りは、十一月二十五日まで開催しています。